

## 統合失調症に対する電気けいれん療法後の再発：系統的レビューとメタ分析

### Relapse following electroconvulsive therapy for schizophrenia: a systematic review and meta-analysis

青木 宣篤<sup>1,2,3</sup>、田近 亜蘭<sup>4</sup>、諏訪 太朗<sup>5</sup>、川島 啓嗣<sup>6,7</sup>、安田 和幸<sup>8</sup>、清水 敏幸<sup>1</sup>、内沼 虹衣菜<sup>8</sup>、  
富永 裕崇<sup>9</sup>、Xiao Wei Tan<sup>10</sup>、Azriel H K Koh<sup>10</sup>、Phern Chern Tor<sup>10</sup>、Stevan Nicoline<sup>2,3</sup>、  
Donel Martin<sup>2,3</sup>、加藤 正樹<sup>1</sup>、Colleen Loo<sup>2,3</sup>、木下 利彦<sup>1</sup>、古川 壽亮<sup>4</sup>、嶽北 佳輝<sup>1</sup>

1 関西医科大学 精神神経科学講座

2 Department of Psychiatry, University of New South Wales, Sydney, New South Wales, Australia

3 Black Dog Institute, Randwick, New South Wales, Australia

4 京都大学 医学研究科 社会健康医学系専攻健康要因学講座健康増進・行動学

5 京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端作業療法学講座

6 京都大学医学部附属病院 緩和医療科

7 京都大学医学部附属病院 精神科神経科

8 山梨大学医学部附属病院 精神神経医学講座

9 松和会 門司松ヶ枝病院 精神科

10 Department of Mood and Anxiety, Institute of Mental Health, Singapore

[Schizophrenia Bulletin 2024 Oct 4: sbad169. Doi: 10.1093/schbul/sbae169]

【目的】統合失調症に対する電気けいれん療法(ECT)は、薬物治療抵抗例において急性期の症状改善に有効であるが、その後の再発率に関するエビデンスは乏しく、治療効果の持続性や維持療法の最適化については、うつ病領域におけるECTほどの明確な指針は存在しない。統合失調症における再発は、再入院や社会機能低下を招き、患者の生活の質(QOL)を著しく損なうだけでなく、医療費や社会的コストの増大を引き起こす重大な課題である。本研究は、急性期ECT後の縦断的な再発割合を系統的に検討し、その時期・頻度および維持療法の影響を明らかにすることを目的に、ランダム化比較試験と観察研究を対象としたシステマティックレビューとメタアナリシスを実施した。

【結果】6413件の文献から29研究(3876例)が解析対象となった。再発割合の統合推定値は、急性期ECT後3ヶ月で24%(95%CI: 15-35%)、6ヶ月で37~40%(27-47%)、12ヶ月で41%(34-49%)、24ヶ月で55%(40-69%)であり、特に最初の3-6ヶ月以内に集中することが示された。維持療法別にみると、抗精神病薬単独群の再発率は3か月33%(95%CI: 20-47%)、6か月47%(34-59%)、12か月47%(39-55%)、24ヶ月51%(45-57%)であった。一方、抗精神病薬と継続・維持ECTを併用した群では、3ヶ月12%(95%CI: 5-22%)、6ヶ月20%(11-32%)、12ヶ月30%(21-40%)、24ヶ月40%(29-51%)と一貫して低値を示した。とりわけ再発が集中する急性期後6ヶ月において、抗精神病薬+維持ECT併用群の再発割合は抗精神病薬単独群の半分に抑制されており、再発予防効果の存在が示唆された。研究間の異質性は高かったが、方向性としては一致していた。

【結論】本研究は、統合失調症における急性期ECT後の再発は残念ながら一般的であり、多くが急性期ECT後の6ヶ月以内に発生することを明らかにした。急性期ECT後に抗精神病薬単独で維持を行った場合と抗精神病薬と維持ECTを併用した場合では、再発は後者で一貫して低く、急性期ECTの効果を最大化するために、抗精神病薬と維持ECTの併用が有用である可能性が示唆された。本研究で得られた知見は、統合失調症に対するECT後に期待される転帰に重要な端緒を与え、ECT後の統合失調症患者の予後、すなわち「どれくらいの期間、どれくらいの割合で再発するのか」といった臨床疑問に応え、治療抵抗性統合失調分野における臨床医や患者およびその家族にとって貴重な知見を提供するものである。